

令和７年度 第２回荒川水系
渇水調整協議会（秋季定例会）

荒川ダム群等の現状と今後の見通しについて



浦山ダムと秩父さくら湖(令和７年１０月３０日撮影)

令和７年１１月６日

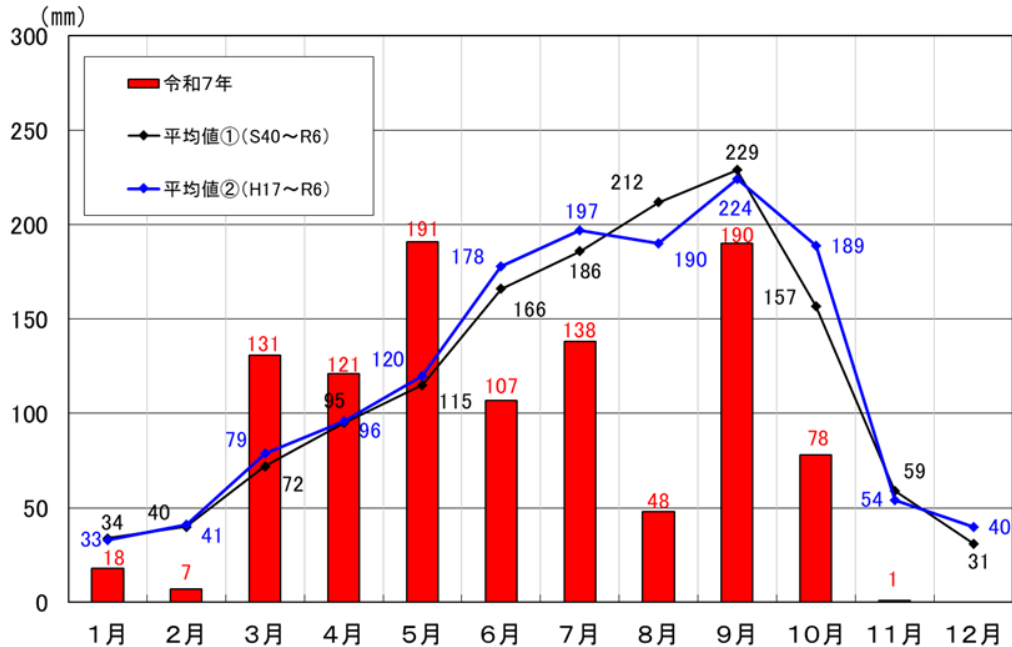
関東地方整備局

1. 荒川4ダム等の現状

1) 秋ヶ瀬地点上流域平均降水量の状況（令和7年11月5日0時までの降水量）

秋ヶ瀬（埼玉県志木市宗岡地先）地点上流域における降水量は、6月以降、平均値（昭和40年～令和6年の60年間の平均）を下回り続けています。特に8月は、平均値212mmに対して約2割となる48mmとなりました。9月は台風15号や前線等に伴う降雨があったものの、平均値229mmの約8割にあたる190mmにとどまりました。10月は平均値157mmの約5割である78mmとなっています。

（図－1、表－1 参照）



図－1 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和7年11月5日0時まで）

表－1 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和7年11月5日0時まで）単位：mm

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
平成26年	8	179	51	51	73	512	125	182	125	286	62	28	1,682
平成27年	41	23	48	84	47	192	281	213	322	26	119	28	1,424
平成28年	75	53	74	72	44	119	90	462	247	31	87	60	1,414
平成29年	24	10	73	67	67	70	218	263	138	488	13	7	1,438
平成30年	27	17	160	53	124	118	200	184	340	44	21	24	1,312
令和元年	10	24	97	58	91	239	225	137	166	725	80	29	1,881
令和2年	95	11	105	186	103	221	304	56	261	209	5	3	1,559
令和3年	36	43	110	60	102	140	288	209	144	117	51	66	1,366
令和4年	7	26	65	162	110	159	278	123	233	109	64	25	1,361
令和5年	6	25	86	39	142	296	47	173	173	67	47	9	1,110
令和6年	26	58	124	72	160	184	103	409	115	146	65	2	1,464
平均値①に対する割合 (%)	76%	149%	175%	76%	140%	111%	55%	196%	50%	93%	110%	6%	105%
平均値① (S40~R6)	34	40	72	95	115	166	186	212	229	157	59	31	1,396
平均値② (H17~R6)	33	41	79	96	120	178	197	190	224	189	54	40	1,441
令和7年	18	7	131	121	191	107	138	48	190	78	1		1,030
平均値③に対する割合 (%)	53%	18%	182%	127%	166%	64%	74%	23%	83%	50%	2%		74%

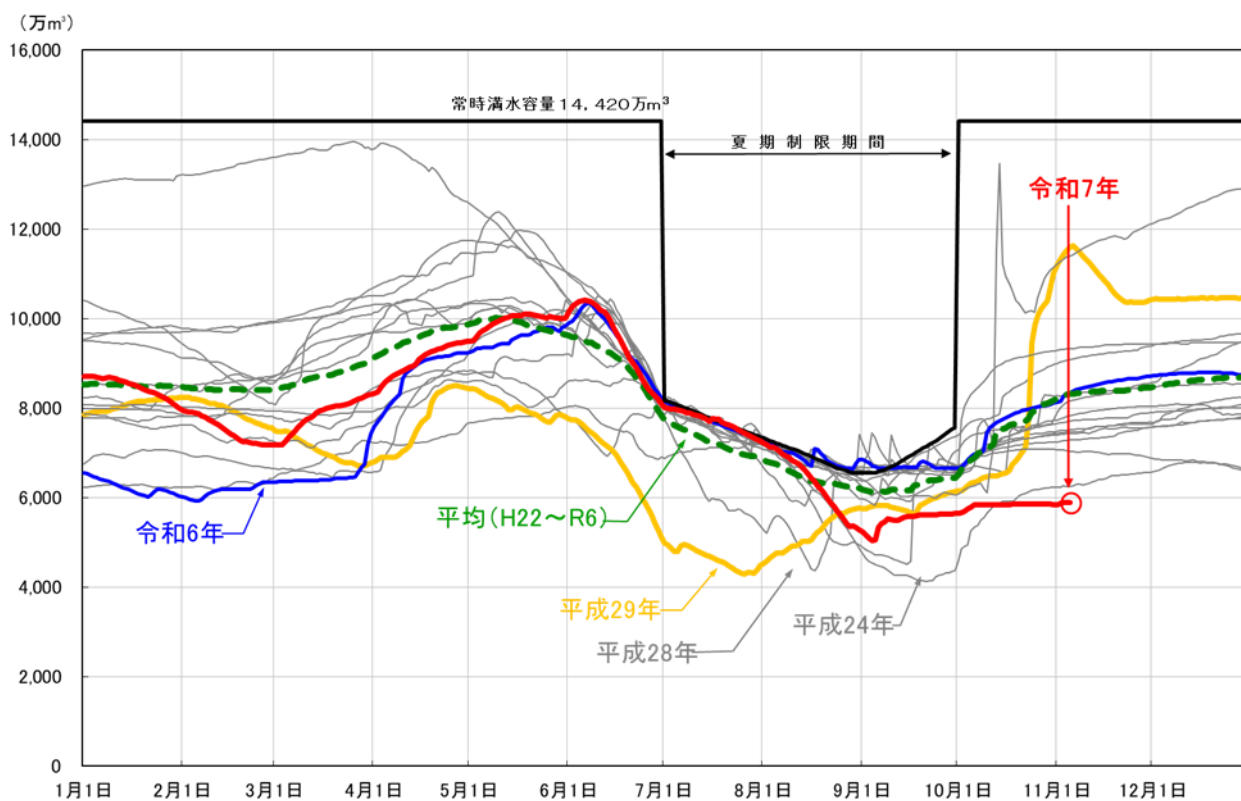
注）平均値①はデータが存在する期間（59ヶ年）を平均したもの

平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 荒川4ダムの貯水状況等（令和7年11月5日0時現在）

荒川4ダムでは、少雨の影響により河川流量が低減し、8月上旬よりダムからの補給量が増加しました。9月に入ると、台風15号や前線等に伴う降雨の影響、さらに農業用水の取水量の減少により、貯水量は増加傾向にあります。令和7年11月5日0時時点の合計貯水量は、5,895万m³（貯水率41%）となっています。

（表－2、図－2 参照）



図－2 荒川4ダム貯水量図（令和7年11月5日0時現在）

表－2 荒川4ダム貯水量（令和7年11月5日0時現在）

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)
二瀬ダム	2,000	35	2%
滝沢ダム	5,800	1,970	34%
浦山ダム	5,600	2,873	51%
荒川貯水池	1,020	1,017	100%
4ダム合計	14,420	5,895	41%
4ダム合計の平均値 (平成22年～令和6年)		8,313	(平均値に対して71%)

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

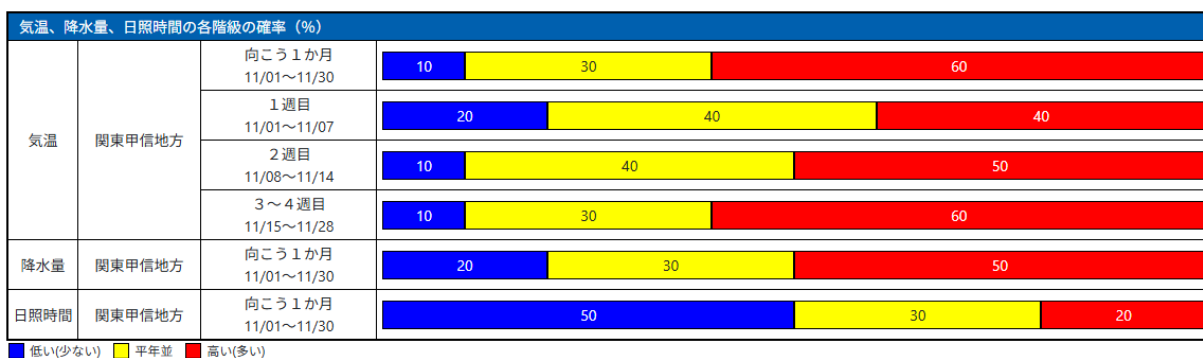
2. 今後の見通し

気象予報

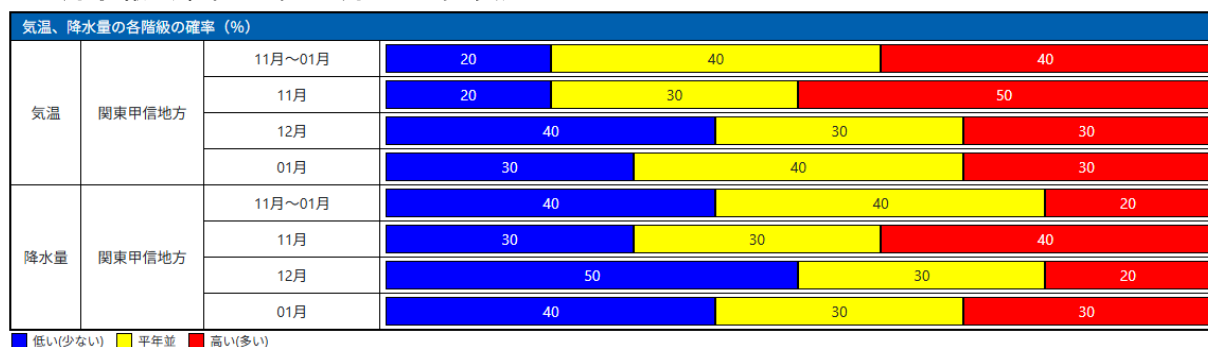
令和7年10月30日気象庁発表の関東甲信地方の1か月予報(令和7年11月1日から令和7年11月30日までの見通し)によると、向こう1か月の気温は「高い」の確率が60%、降水量は「多い」の確率が50%となっています。また、令和7年10月21日気象庁発表の3か月予報(令和7年11月から令和8年1月までの見通し)によると、向こう3か月の気温は「高い」の確率が40%、降水量は「多い」確率が20%となっています。

なお、令和7年9月22日気象庁発表の寒候期予報(12月～2月までの天候の見通し)によると、関東甲信越地方の今冬は、気温が「高い」の確率が30%、降水量が「多い」確率が20%となっています。

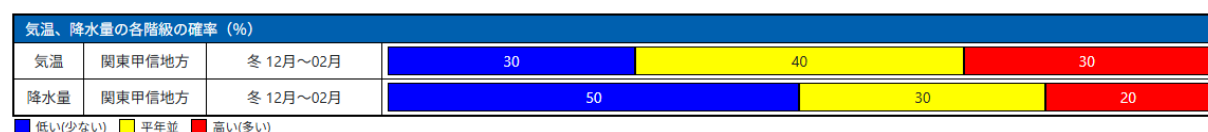
1か月予報(令和7年10月30日発表)



3か月予報(令和7年10月21日発表)



寒候期予報(令和7年9月22日発表)



3. 今後の対応

- 今後は、荒川流域の降水状況や都市用水の水利用を十分考慮し、工事に伴う貯留制限による利水容量への影響を最小限にするよう努めるとともに、既存施設等を広域的かつ効果的に活用してきめ細かな運用を行っていきます。
- 荒川4ダムの貯水量は、9月以降増加傾向にありますが、依然として平均値を下回っているため、引き続き状況を注視するとともに、関係機関との情報共有を行ってまいります。
- 荒川水系渇水調整協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。